

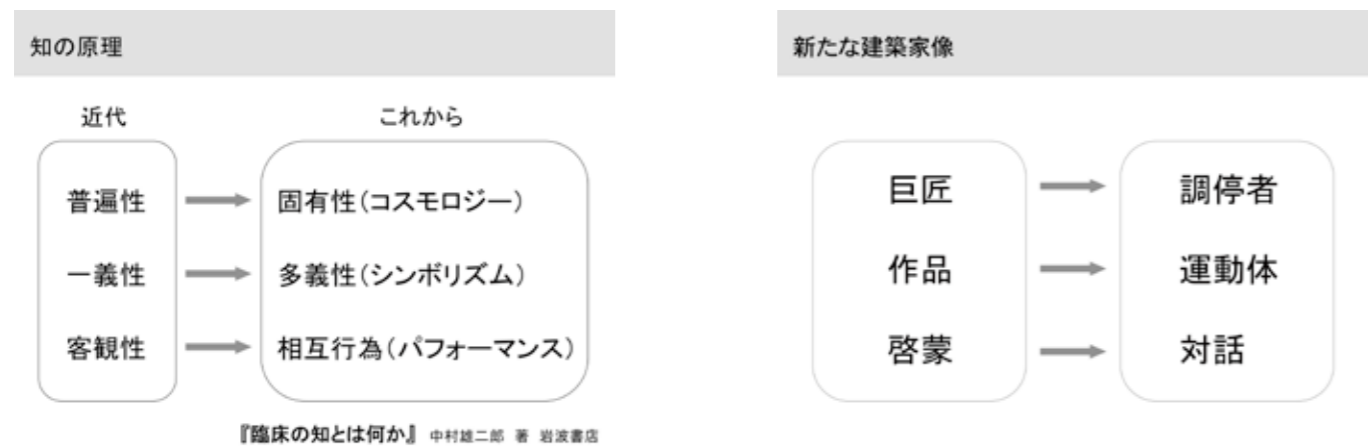
## JIAの目指す建築家像

哲学者 中村雄二郎氏は近代を特徴づけるものとして、〈普遍性〉〈一義性〉〈客観性〉を挙げ、反対に失われてきたものとして〈固有性〉〈多義性〉〈相互行為〉を挙げている。

この指摘を建築の領域で考えてみると、確かに近代建築はインターナショナルスタイル、合理主義、機能主義が主流となり、地域性や個性、人間性といったものが失われてきたように見えてくる。

グローバルスタンダードや経済原理のもとで作られてきた建築やまちをもっと魅力的なものにして行くためには、これからの建築家は近代を乗り越えて、地域の固有性を尊重するとともに多様な人々や様々な活動を許容しさらに誘発して行く必要があるようだ。近代の目指す建築家像は社会を〈啓蒙〉して〈作品〉を作る〈巨匠〉となるようなものであった。

しかしこれからの建築家像は関係者や市民と〈対話〉して〈運動体〉に関わる〈調停者〉といったものになるのであろう。



〈プロとしての仕事に責任を持つことで輝く“スターアーキテクト”〉

コロンビア大学の建築学部長マイケル・ウイグリー氏は、「プロフェッショナルは皆が、自らの専門に責任を持つことで輝くスターである。」とし、また一人のスーパースターが新しい可能性を切り開く時代から様々な専門家のコラボレーションの時代に変わってきていることを指摘している。

JIA建築家はプロとして自らの仕事に責任を持つことで皆輝くスターとして誇りを持ち、建築・まちづくりを統括する調停者としての姿を目指したい。

〈地域に根差す“コミュニティアーキテクト”〉

地域主体の街づくりを推進するためには、市民・行政・専門家による地域のまちづくりを行う組織〈まちづくり推進協議会〉やコミュニティアーキテクトの役割がさらに重要になってくる。

JIA建築家は建築士会とも協力して地域のまちづくり活動を積極的に展開して実績を重ねるとともに、コミュニティアーキテクトの活動を継続できる制度づくりに努めたい。

〈国境や領域を超えて活躍する“クロスボーダーアーキテクト”〉

WTO、GATTによるサービス貿易自由化の波は、会計士、弁護士に続き建築士にもグローバルスタンダードを迫ってきている。

日本の建設投資は半減している状況であり、アジアを始めとする諸外国では日本の技術や優れた建築家を求めている。

JIA建築家はUIA基準建築家資格による相互承認推進や各国の建築家協会との情報交換を行い、国境や領域を越えて自由に活動するクロスボーダーアーキテクトを目指したい。



## パラダイムシフト

〈自然の克服から自然との共生へ〉

人類はその長い歴史の中で、生きるために自然との闘いを繰り返し、近代に於いては科学技術により自然をコントロールすることを目指してきた。

しかし、この度の災害は人間の自然に打ち勝つ努力をものともしない大自然の力をまざまざと見せつけられ、自然に打ち勝つことを目指す事より自然と上手く共生して行く道を選ぶ方が得策であると思知らされた。

人間が自然を支配するデカルト主義につながる近代主義から、自然との共生や循環を旨とするニーチェやポストモダンの思想へ転換する、文明のパラダイムシフトが今まさに進行しつつある。

〈マネー資本主義から環境資本主義へ〉

現代の社会は、マネー資本主義を原動力に能率・効率を第一義に拡大・成長を続け、経済成長のために自然破壊が進行し、その結果ローマレポートに示されたように地球環境が悲鳴をあげている。

また経済もバブル経済の崩壊やマネー資本主義の行きすぎによる弊害が露呈して、成長の限界が見えてきた。

ブータンの首相 ティンレー氏はGNP(国民総生産量)に対してGNH(国民総幸福量)の大切さを提唱しているが、経済成長が必ずしも国民の幸せに直結しない事を示している。

環境を共通の資産として次世代に継承して行くことを旨とした、お金に換えて環境を資本とする新しい環境資本主義時代の到来である。

〈一極集中型社会システムから地域分散型社会システムへ〉

我が国のエネルギーシステムは一極集中して格大し続ける巨大都市のエネルギー消費をまかなうため、遠隔地に経済合理性のもとに大型の発電所を設けてはるばる高圧線で消費地まで送電している。

原発に代表されるように金銭保証により地元のリスクと自然破壊に対処する弊害や送電による大幅なロスなど様々な問題が明らかになってきた。

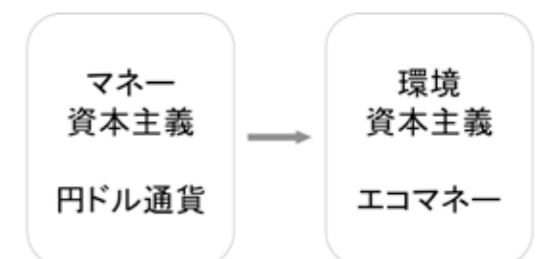
これからは消費地で自然エネルギーを活用して電力を創り出す、地域分散型エネルギーシステムへの移行が求められている。

そのためには、スマートグリッドのような新たなエネルギー供給システム構築とスマートシティともいえる地域分散型社会に向けた建築・街づくりを計画的に推進して行く必要がある。

自然の克服から自然との共生へ



マネー資本主義から環境資本主義へ



一極集中型社会システムから地域分散型社会システムへ

